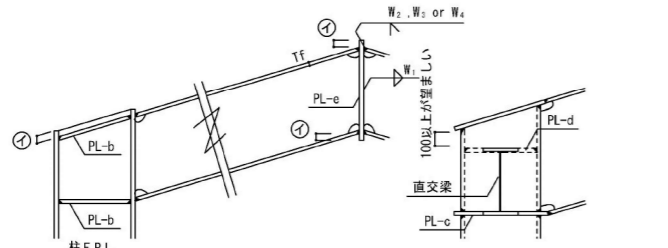


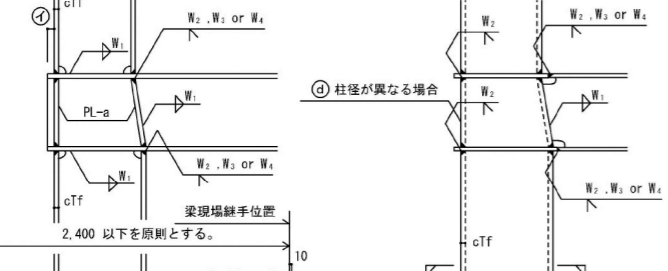
鉄骨工作標準図 (2)

§ 6 柱梁接合部及び継手

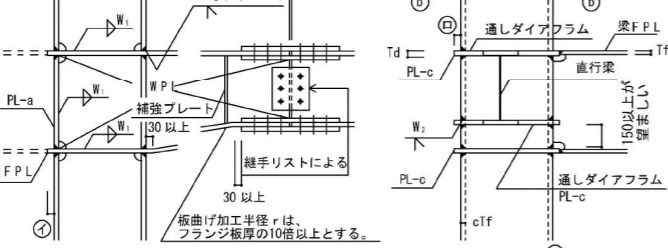
6-1 勾配屋根



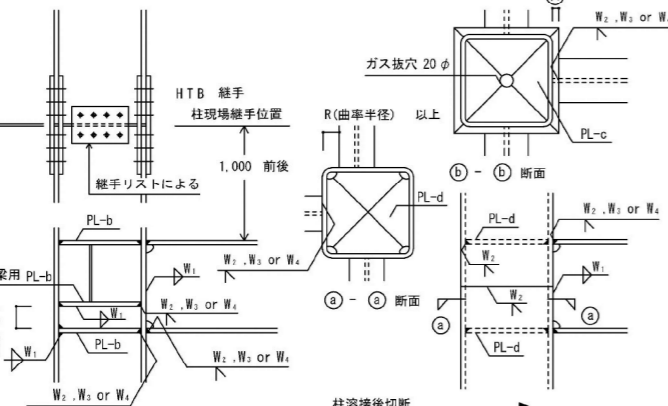
6-2 梁通し



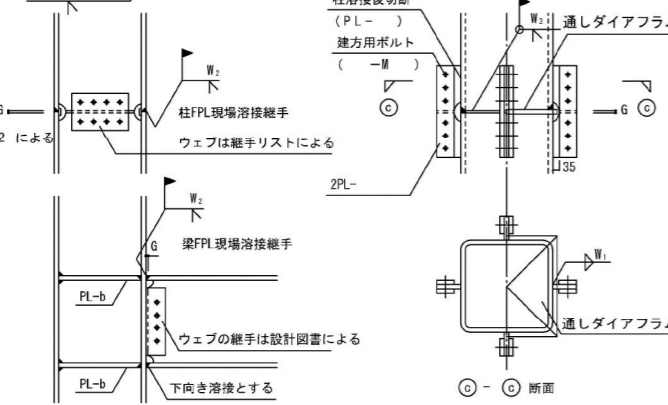
6-3 仕口と継手



6-4 柱通し

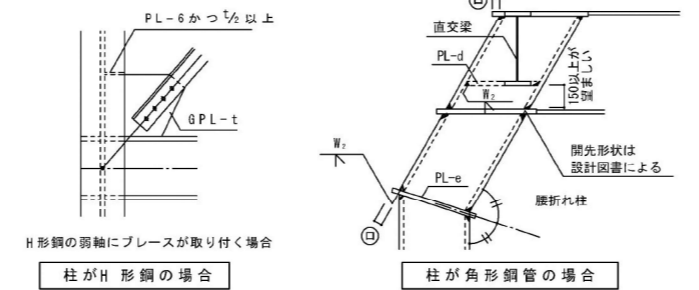


6-5 現場溶接継手



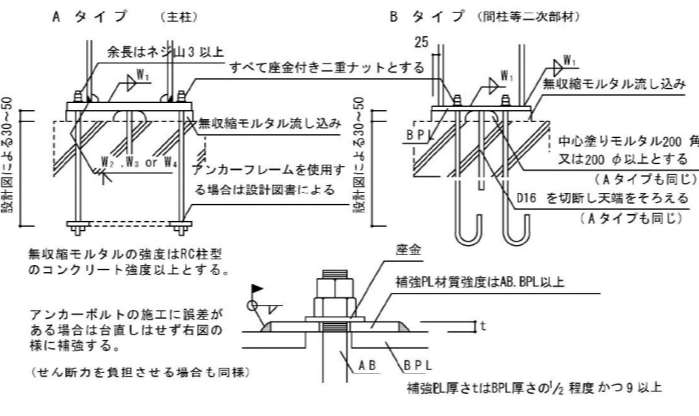
柱がH形鋼の場合 柱が角形鋼管の場合

6-6 その他



- 1) パネルゾーンのPLの厚さ
1. PL-a (鉛直スチフナ) 上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
 2. PL-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
 3. PL-c (通しダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
 4. PL-d (内ダイアフラム) 仕口部に集結する梁の最大FPLより1~2サイズUP以上
 5. PL-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のFPLより1サイズUP以上
- 2) 出寸法
- ㊦ 25mm かつ cTf 以上
 - ㊧ cTf ≤ 25 の場合 25
 - ㊨ cTf ≥ 28 の場合 30
- 3) 注記
1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 2. ㊩(6-2項) 上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折れ曲げ加工又は溶接加工とする。
 3. ハンチ部でFPLを折曲げる場合はR ≥ 10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。

§ 7 柱脚



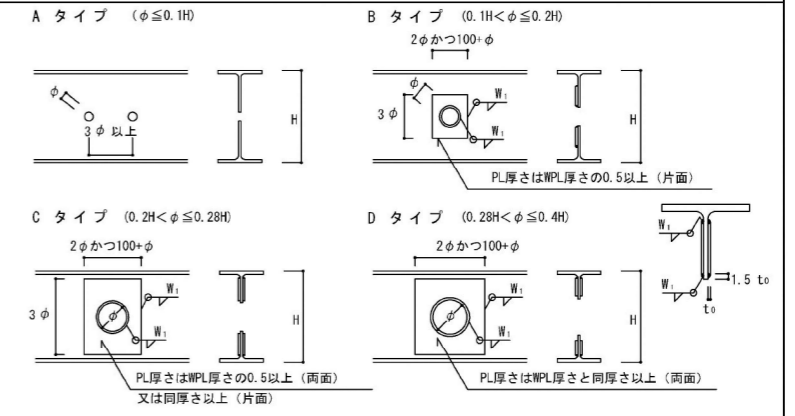
§ 8 壁面ブレース



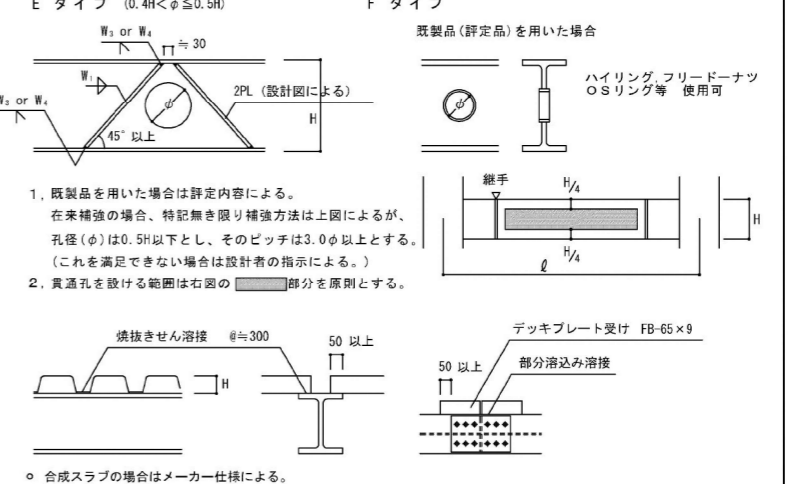
1. GPLの最小幅 ℓ_0 が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共 JIS規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

§ 9 その他

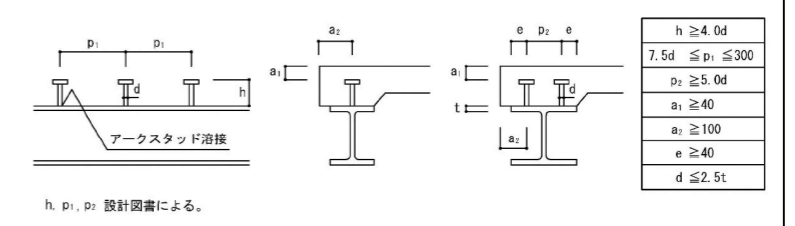
9-1 貫通補強



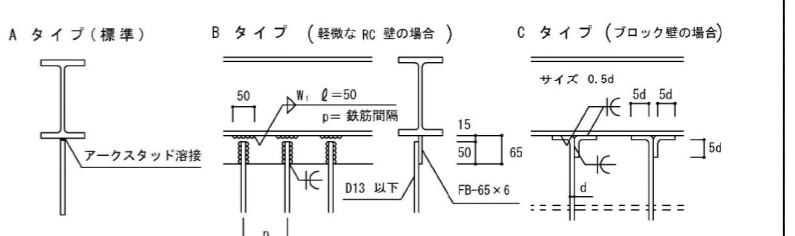
9-2 デッキプレート

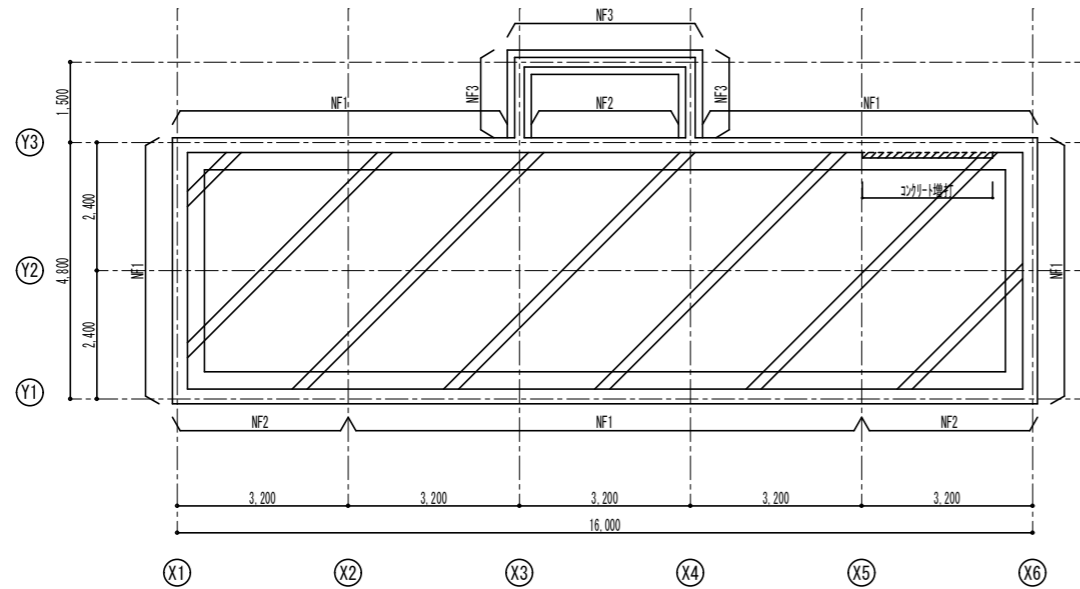


9-3 スタッドジベル



9-4 壁筋の溶接





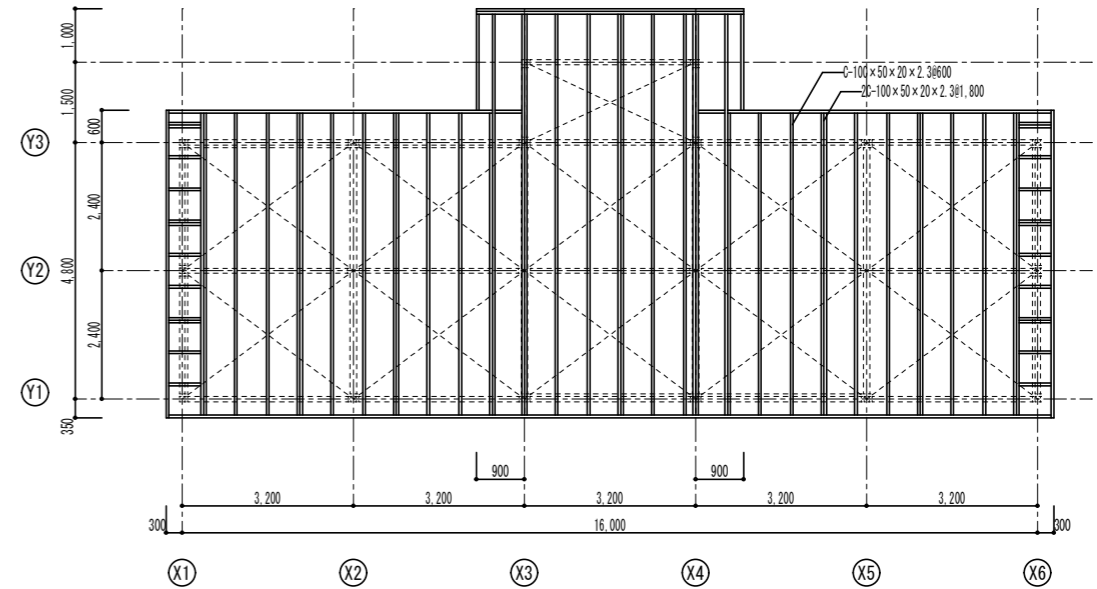
基礎伏図 1/100

※ 斜線は土間範囲を示す。土間下についてセメント系固化工材攪拌による表層改良を行う。使用固化工材量について検討を行う事。(50kg/m³以上とする)

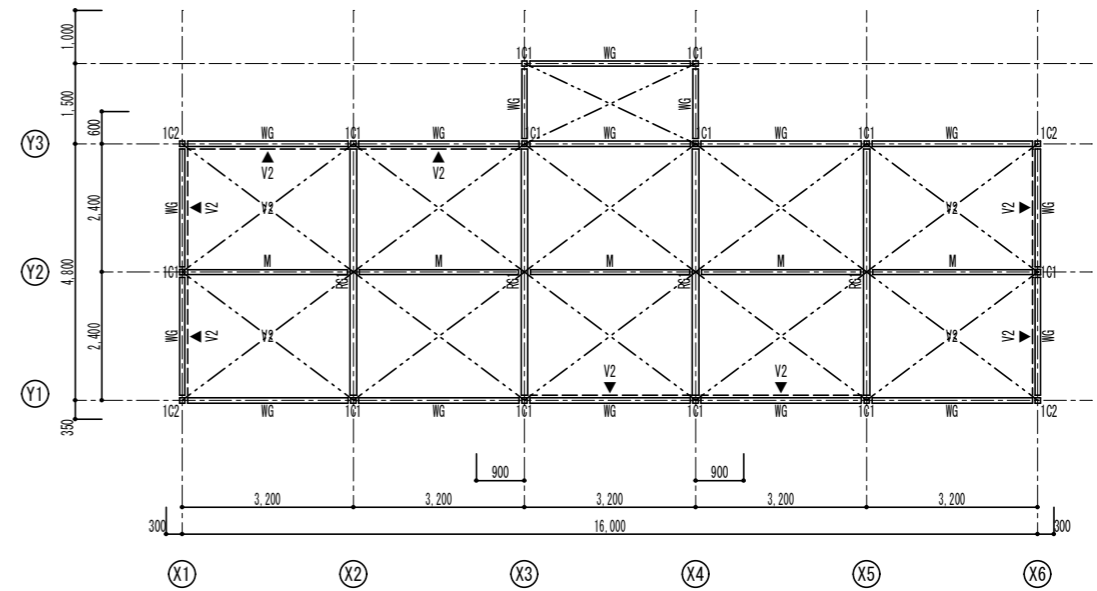
材料リスト	
コンクリート	普通コンクリート F28=Fc21N/mm ²
鉄筋	SD295
アンカーボルト	SNR400B・SNR490B M16・M20

床版リスト					
符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
D1	150		D10@200		土間

地耐力は50kN/m²として設計する。
 施工前に地盤調査（平板載荷試験）を行い設計地耐力の確認を行う。
 地盤調査による地耐力の確認結果について、
 満足できない場合は、基礎の設計変更を行い、計画変更を行う。

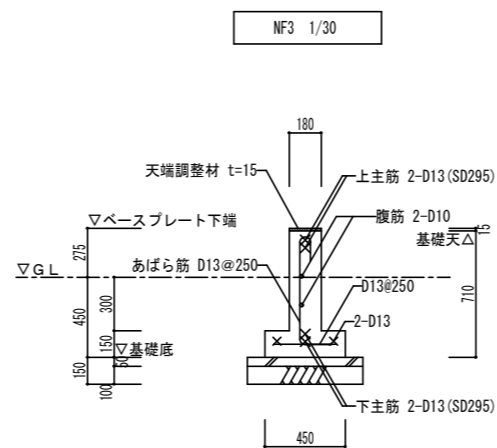
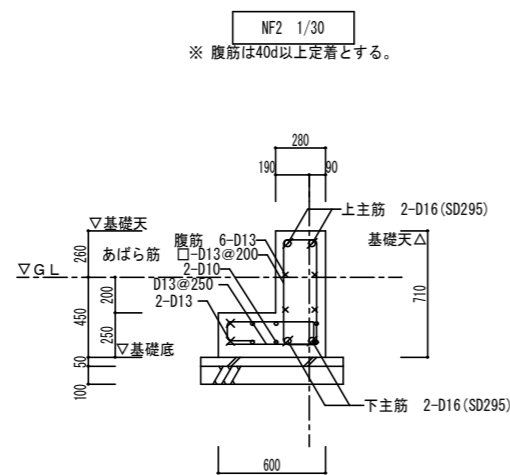
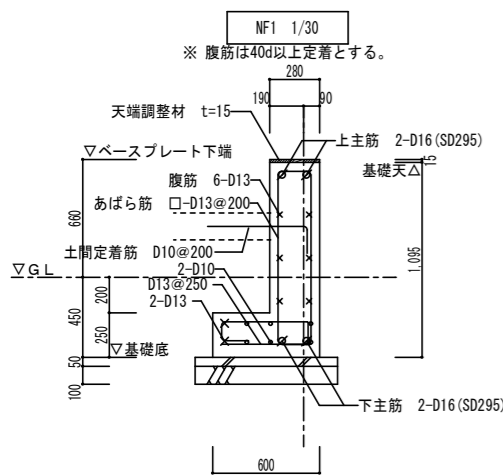


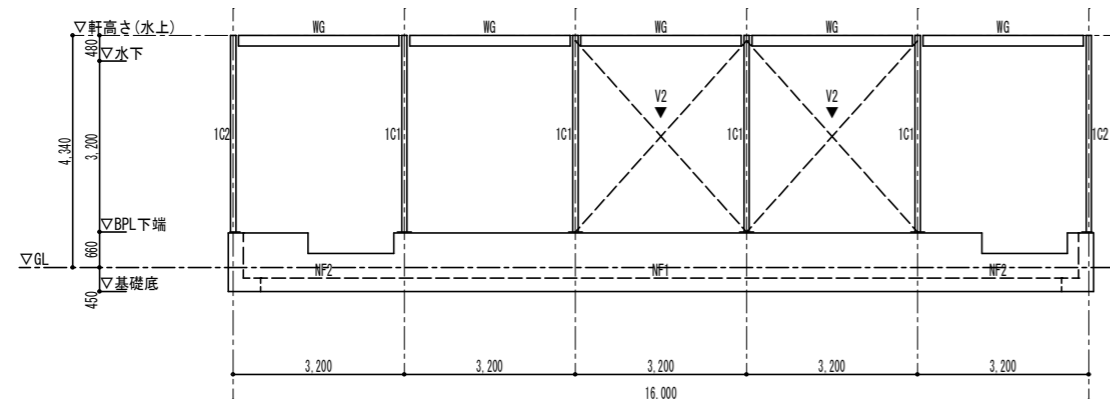
母屋伏図 1/100



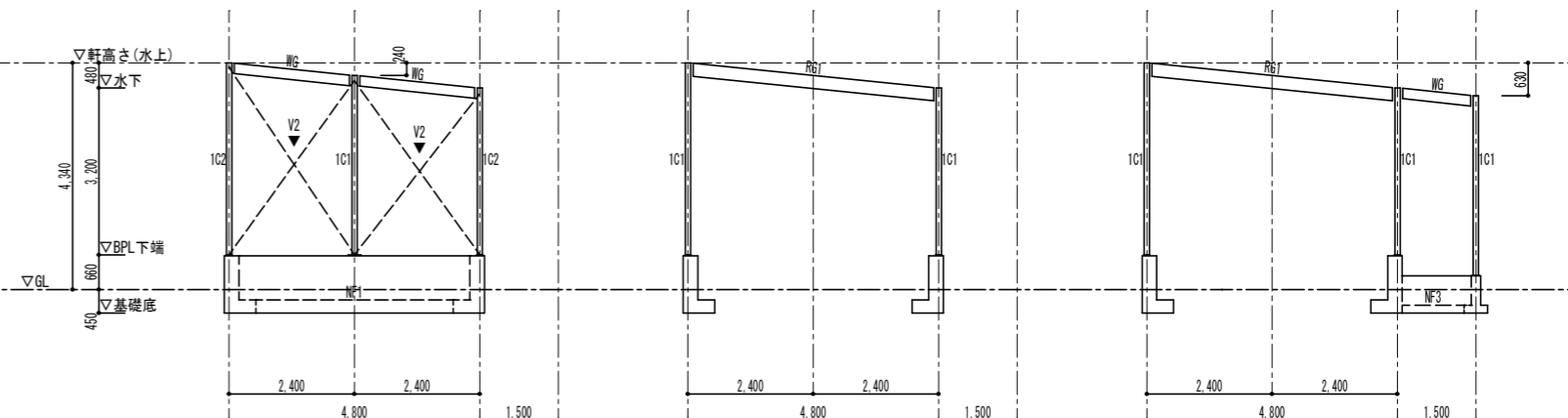
RF伏図 1/100

※ 特記なき限り水平ブレースはV1 (I-M12) を示す。





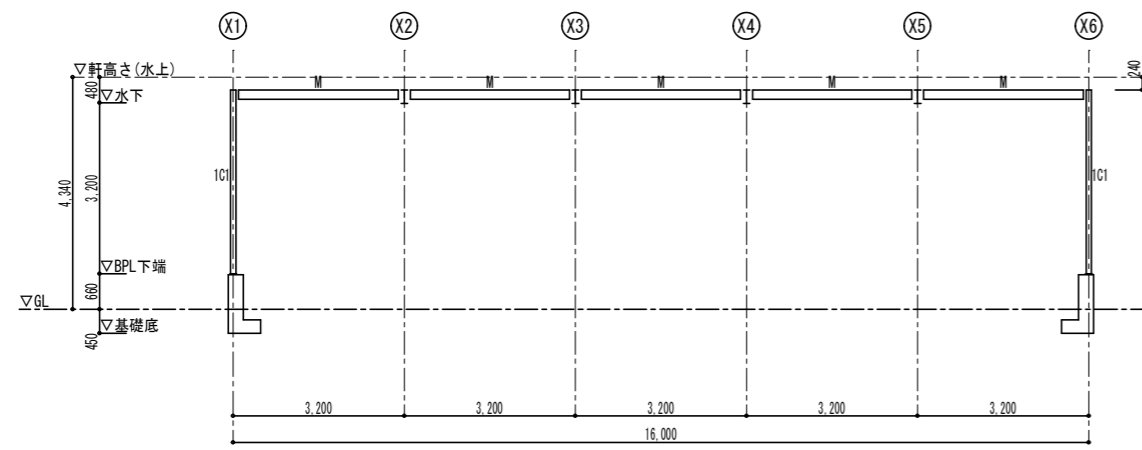
Y1通り軸組図 1/100



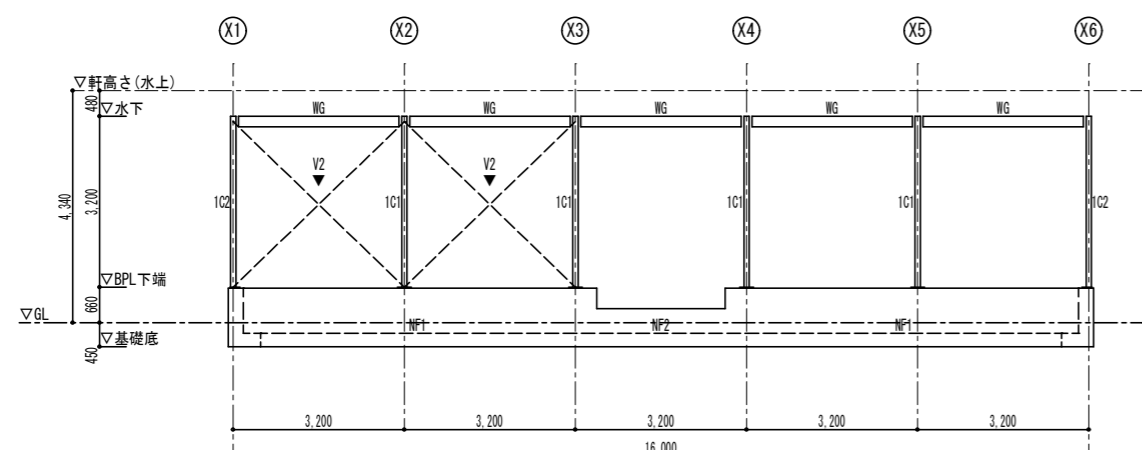
X1・X6通り軸組図 1/100

X2・X5通り軸組図 1/100

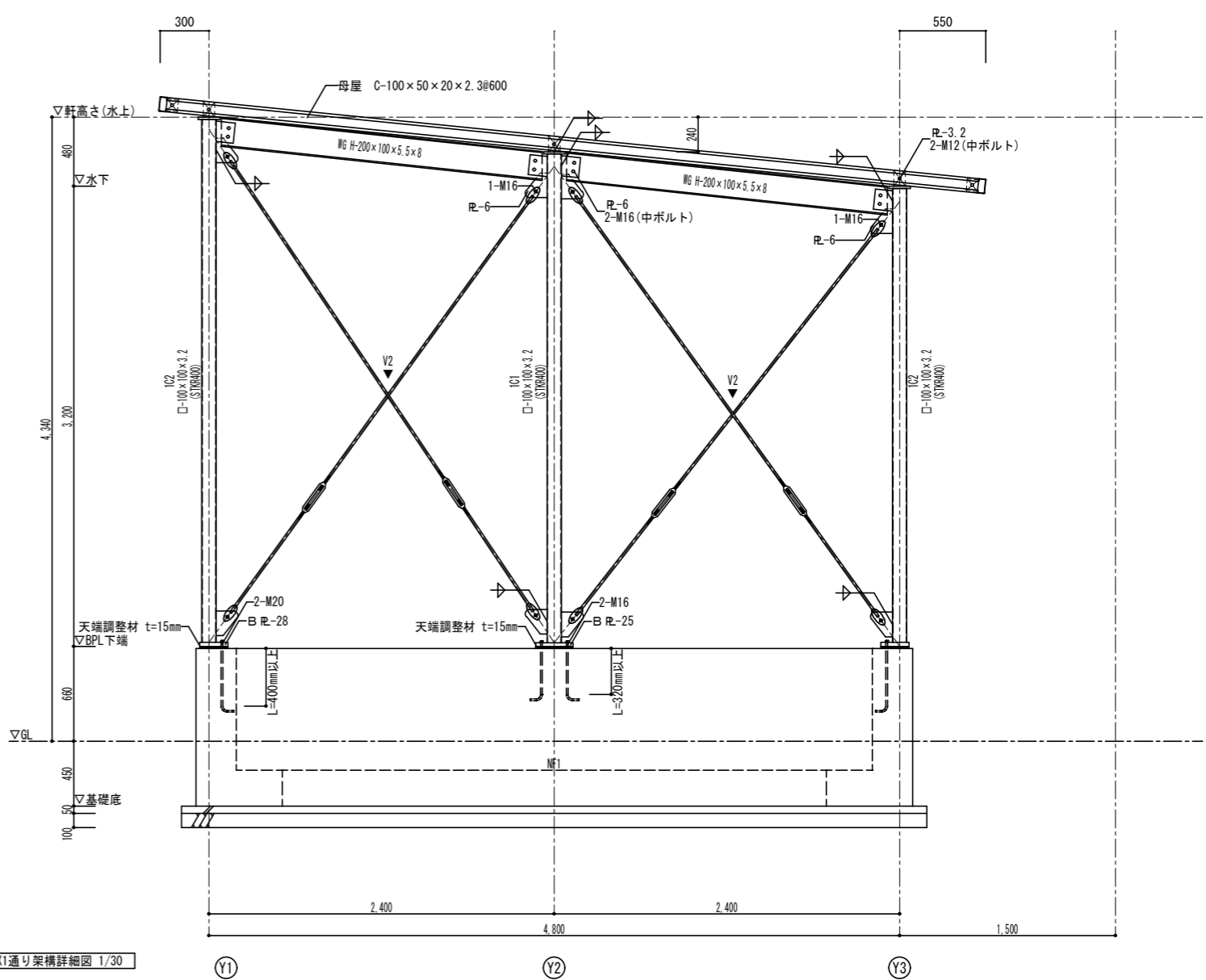
X3・X4通り軸組図 1/100



Y2通り軸組図 1/100



Y3通り軸組図 1/100



X1通り架構詳細図 1/30

足立建築工房 一級建築士事務所
 京都府宇治市木幡平尾 1-65
 TEL (0774) 33-6022 FAX (0774) 33-6040

所長 主任 担当

工事名 西宇治中学校施設長寿命化改修工事(その3)
 図面名 軸組図・架構詳細図

縮尺 1/100 1/30

図番 S-07

柱 リスト

符号	階	部 材 寸 法	細長比	大 梁 ・ 小 梁 リスト							
				符号	部 材 寸 法	ガセット プレート	中ボルト	符号	部 材 寸 法	ガセット プレート	中ボルト
C1	1 階	□ -100X100X3.2	X方向 103.8 Y方向 103.8	RG1	H-250×125×6.0×9	GR-9.0	3-M20 (4.8T中ボルト)	縦筋縁	□-75×45×2.3 @600	GR-3.2	1-M12 (4.8T中ボルト)
C2	1 階	□ -100X100X3.2	X方向 103.8 Y方向 103.8	WG	H-200×100×5.5×8	GR-6.0	2-M16 (4.8T中ボルト)	横開口補強	2C-75×45×15×2.3 横使い	GR-3.2	1-M12 (4.8T中ボルト)
				M	H-175×90×5×8	GR-6.0	2-M16 (4.8T中ボルト)	母屋	C-100×50×20×2.3 2C-100×50×20×2.3 @600@1,800	GR-3.2	1-M12 (4.8T中ボルト)

材料

ターンバックルボルト用丸棒鋼 (M12~M20)
JIS G3138建築構造用圧延棒鋼 SNR400B
ターンバックルボルト用平鋼 (M12~M22)
JIS G3136建築構造用圧延鋼材 SN400B
ターンバックル鋼 (M12~M22)
【ST】 JIS G3138建築構造用圧延棒鋼 SNR400A
【PT】 JIS G3475建築構造用炭素鋼管
STKN400W又は400A

高力ボルト及びボルト (JIS B1051)
戻り止めに関して、令第67条の戻り止め処置によること。
戻り止めには【ばね座金】を使用する。(JASS6 7.2の)
座金はボルト頭下およびナット下に各一枚使用すること。
中ボルトの孔径はボルト径+1mmを超えないこと。

使用材料リスト	b1	M10	V1	M12	V2	M16
鉄骨 SS400 (H形鋼) SSC400 (C形鋼) STKR400 (角形鋼管)						
中ボルト使用 アンカーボルトSNR490B						
プレースフルサト工業株 又はコンドレーテック ターンバックル JIS G3138 SNR400B	PL-10 ボルト 1-M12 (HTB) 高力ボルト使用 F8T	PL-10 ボルト 1-M16 (HTB) 高力ボルト使用 F8T亜鉛メッキ	PL-10 ボルト 1-M16 (HTB) 高力ボルト使用 F10T			

